



今月号の内容

- 沙弥校の報告(1面)
- 日蓮大聖人の歩まれた道・よろこび佛教語解説(2面)
- 法華経のお話⑤(3面)
- よろこび法話(4面)

平成23年(2011年)10月1日(土)
10月号

発行所
〒873-0002
大分県杵築市南杵築1539番地
妙経寺内

日蓮宗霊断師会

会 長 新聞 智雄
日蓮宗霊断師会事務局
電話 0978-62-3570
FAX 0978-62-3571

編集人 松本 恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

八月二十二日から二十五日まで、三泊四日の日程で、新聞智雄会長の御自坊・東京新宿の感通寺を会場として、全国霊断師各聖の御協力と御協賛のもとに、日蓮宗、そして霊断師会の次代をになう法器養成を目的とした「沙弥校」が「正しく・厳しく・楽しく」を指導方針とした僧風教育を基本に開催された。

これは本会主催の「沙弥校」が本年度は中止となる中、有志霊断師の要望に応えたものである。新聞智雄会長は、「佛さまの願い」と



本堂前での記念撮影

日蓮宗霊断師会が目指す「沙弥校」は「法華経の命を継ぐ人」を育てる為にある。

日本全国、そして海外で法華経弘布(ぐふ)に専心専業する霊断師各聖の子弟教育を目指す本会に於いては、霊断諸師が愛してやまない法灯の継承者たる子弟に、法要儀礼はもとよりのこと、我が師、我が父母の弘道者たる真の姿を、何よりもその心にしっかりと、そして鮮明に、止め置くことを目的とするのが「沙弥校」開催の真義である。

次代をになう法器養成
「沙弥校」、東京感通寺で開催!



朝の勤行

三泊四日の凝縮された修業期間、子どもたちは発声練習や読経の時間には一生懸命に大きな口を開けて声を出し、教養の時間には真剣な表情で講義を聴き、声明の時間では慣れない正座で足の痛いに、難しい法要の所作を幼い体に植え付けるように体得した。

「沙弥校」での最大の心配事は、いつも子どもたちの健康管理である。

題した御講義の中で、「皆さんがお寺に生まれてきてお坊さんになるまでには、様々な悩みや試練があるけれども、その中で一番の力になるのは、立派なお上人になつてね。がんばってね」と、皆さんをいつでも励まし、見守っていて下さるお師匠様やご両親、檀信徒の皆さんの温かい眼差しと想いであり、その中に本当の「佛さまの願い」があるのですよ。お師匠様や御両親は、皆さんの未来の為に一生懸命にお経を読んだり、霊断法によって困っている人の悩みを解決する立派な行いをしているのですから、多くの悩める人々を救い励ますお寺の子として、自覚と自信を持って修行して下さい。」との励ましの言葉を送った。



感想文

感想文を書いていただいた月本さんは、これから僧侶になるために修行中の方で、お経を勉強するために、沙弥校生とも一緒に過ごした仲間です。

東京都 感通寺内 月本行則

先ずは今回の沙弥校に参加する機会を与えてくれた新聞校長先生に感謝致します。また後継者の育成と教育者としての先生方、食事等に熱意をもつ先生方、食事等の裏方をご支援頂いた先生方に感謝致します。

校長が冒頭に言われた、世の

「先生、美味しかったです！」という子どもたちの感謝の言葉は、管理監督する教監部・大膳部の何よりの励みであり、僅かな沙弥校期間の中で、時々刻々成長する子どもたちの姿こそが、「よろこび」であり、沙弥校の真骨頂なのである。

また、この度の沙弥校では、先の東日本大震災についても、子どもたちに語り聞かせる時間を取った。愛する人を亡くした悲しみ、今まで営み、育んできた全てのも



ディズニーランドにて

今回、食事に関しては女性霊断師の皆様のご協力を戴いて、細やかなご配慮により様々な形で子どもたちを気遣う献立を提供して下さいました。

「先生、美味しかったです！」という子どもたちの感謝の言葉は、管理監督する教監部・大膳部の何よりの励みであり、僅かな沙弥校期間の中で、時々刻々成長する子どもたちの姿こそが、「よろこび」であり、沙弥校の真骨頂なのである。

のを失ってしまった悲しみ、そんな想像を絶する状況の中で、「お坊さん」は、何が出来るのか？

そのようなことを、実際に被災地で頑張っておられる霊断師の先輩上人のお話を伺いながら、ひたすらに考え、意見を交わす子どもたちは皆真剣で、次代を担う霊断師のなすべき姿を模索したこの時間、子どもたちは年齢を超えて、もはや日蓮宗の僧侶たる自覚に満ち満ちていた。

津軽宇田山 閻法寺

10月30日 午前9時より
「日蓮大聖人御会式」
毎月 第2土曜日
午後3時より「唱題修行」

〒030-1403
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712

住 職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団

10月16日(日)午前11時
納骨・納位牌堂総供養
鬼子母神大祭・小松原法難会
毎月1日午前10時「盛運祈願会」

妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄
〒071-1423
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび

美濃乃國 常唱寺 聖徒団

〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

妙顕寺

本山 佐野 日蓮大聖人御真骨奉安

齊藤日軌貫首著
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」
国書刊行会

CD「感謝百万遍陀羅尼」
CD「ないないブルース」

好評 発売中!

〒327-0843
栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団団長
新聞 智雄

〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

日蓮大聖人の歩まれた道

お誕生にまつわる秘話(その二)

総合研究所教学研究部長

小泉 輝泰

さて、日蓮大聖人さまのお誕生にまつわるお話も、だいぶあらぬ方向へ進んでしまいました。特に意図して横道へそれているわけではありませんが、できるだけ皆さんに興味を持っていただけるようなお話をと思つと、どうしてもサイドストーリーをご紹介したくなってしまつたもので



実のところを申し上げれば、日蓮

さまのお誕生に関しては、ほとんど知られていないのです。日蓮さまご本人は、後のお手紙や御書の中で、ご自身の出生についてほとんど触れられていません。ましてや後の活躍を見越して、お誕生すぐよりお側近くで詳細な記録を残していた方などいるはずもなく、あまり知られていないのも当然といえれば当然なのかもしれません。しかしその反面、実は出生について「触れてはいけない」理由があったのではないかと、この思ひも生じてくるのです。

その中でささやかれるのが、日蓮さまが本当はさる高貴なお方の御落胤(ごらくいん)ではないか、との説です。「御落胤」とは歴史に名を刻むことのない子供という意味で、ことに高貴な方の血筋ながら、命を狙われる恐れがあるなどの理由から、その出生を明かすことの出来ない子供を示しているのです。

ちなみに日蓮さまがお生まれになる前年には、かの有名な「承久の乱」が起こりました。その事変によつて、『後鳥羽上皇』始め多くの皇族方が島流しにされてしまつたのです。と、ここまで申し上げれば「なるほ

ど」と思われた方もいらっしゃると思いますが、あくまで「二説には」です。それ以上のところは「委(くわしく)はかゝらず、但おしはかり給べし」とさせていただきます。

天津小湊には「西蓮寺」という天台宗のお寺がありますが、不思議なことに代々そのご住職は、大本山誕生寺で行われる宗祖御降誕会などの大切な法会に、必ず来賓としてご招待され、上座にて参列されるという習慣が今なお残されているのです。

この西蓮寺には大変興味深い伝承が残されています。それは、「ある日の早朝、お堂の裏で赤子の泣き声が聞こえてくるので、何かと思ひ声を聞く方へ行つてみれば、ただならぬ気高さ備えた赤子がそこに捨てられていた(意識)」というものです。その時に赤子を包んでいた大変豪華なおくるみは、「錦の茵(にしきのしとね)」と呼ばれ、今なお西蓮寺宝物として大切に格護されています。しかも西蓮寺史によれば、その当時の住職とは、何と後に日蓮さまの師とされる「道善御坊」であつたと伝えられていたのです。

よろこび 佛教語解説

総合研究所・霊研主任

新聞 信應

『修行』

思い起こせば、あの暑い暑い夏もあつという間に過ぎ、秋も深まり、もうすぐ冬になります。この号が出て一カ月もしないうちに、毎年行われる修行が始まります。

もしかしらば、皆様の団長上人や知つていらっしゃる方が入行される方もお入行されぬ。今年は何人のお上人が入られて修行をされるのでしょうか。という事で今月は『修行』と云う語です。

一般的に修行といえは、特別な場所一人籠もつて淡々と行うもの、そして辛く、苦しく、痛みを伴うようなイメージを持たれています。皆様も何か特別な事をするのが修行だと思つていませんか。

しかし本当は、日々の生活の中で起こる一つ一つの事が、私たちにとつて修行であり、生きていく事そのものが大切な修行なのです。

では、何もせず生きていくだけで修行かという、そうではありません。私たち一人ひとりは、大切な地域・社会の一員である、という自覚を持って生きていかなければ、何の修行にもなりません。それは言い換えれば、ご本佛様の子、日蓮大聖人様の弟子であるとの自覚を持つという事です。その自覚の上で、常に努力を怠る

事無く、南無妙法蓮華経と口に唱え、心に念じ、ご本佛様に、日蓮大聖人様に、ご先祖様に、親に子に、そして生きとし生ける者全てに、敬いと感謝の心を持つて生活する事が、私たちの大切な修行なのです。

一人では苦しい修行も、仲間がいればきつと立ち向かう事が出来ま

す。共に手と手を取り合つてお題目の道を歩んで行きましょう。



イラスト 小川けんいち

あまり知られてはいませんが、伝えによれば道善御坊の前身は天皇に仕える「北面の武士」であつたと言われ、出家の後に「さる所願あつて」全国行脚に出立し、日蓮さまお誕生の数年前に西蓮寺を訪れ、そのまま住職として小湊の地に定住したとされるのです。

色々なことが不思議なつながりを見せてゆきますが、八〇〇年近くの時を経た今となつては、謎はいつまでも謎のままであり、真相は誰にも知ることができません。

いづれにせよ、日蓮大聖人さまご自身も、私たちが同じく大衆の中に生まれ育ちながら、ご本佛さまより大切なご使命を頂戴したことに、何よりの誇りと喜びを感じていらつしやいます。それは色々なお書き物を拝見しても明らかであり、それが唯一の真実なのかもしれません。

イラスト 小川けんいち

俱生神月守・靈断法の「案内」

◆人にはみなそれぞれ「人生」という道がある。しかしその道の先きはよく見えず、地図もない。この先には大きな河が横たわっているかも知れず、大岩が障害物となつているかも知れず、人は誰もそれに気づかず「今」のみを飄々と歩く。そして河に阻まれ打ちひしがれ、大岩を前に愕然とする。

◆私たちが日蓮宗聖徒団には九識靈断法という秘法があります。◆これは俗に言う占いの類とは違い、日蓮大聖人のお教えから生まれた有り難い秘法です。◆カーナビのように河や大岩など人生の中で進むべき道を阻む障害物を見通し、その迂回路を指示し目的地へと導いてくださいます。人事万般なんでもご相談ください。◆また聖徒団には俱生神月守という不思議な御守があり、河の前には橋となり、大岩の前には梯子となり、困難を乗り越える力となつて護つて下さいます。◆難病を癒す不思議な護符もあります。◆充実した人生を歩むため、最寄りの聖徒団のある寺院、教会、結社へお出かけください。

読者感想文

大津波

宮城県女川町 田村 忠義

毎月楽しく読ませて頂いてお

ます。三月十一日の東日本大震災の前は、女川町の人口は一万十人でした。津波発生時は行方不明者が五千人と行方不明者が四九二二人行方不明者四三一人となりました。

私の家は海拔二十メートル、海岸から二千メートルの距離にあり

ます。この二千メートルの間に住んでいた知人友人の人生と、一粒のコメも残さず、すべてを大津波は流してしまつたのです。その中で我が家はお守りの御守護のお蔭で、玄関先一メートル手前で大津波は戻つて行きました。奇跡というほかありません。

しかし、津波が引いた後、玄関前に名も知らぬ老婆の遺体が横たわつており、私はかわいそうに思

い、家の中にお運びして四日程お題目を上げて供養いたしました。四日目に、成仏して頂きたいという思いで、近くのお寺まで大きな段ボールに御遺体をお入れして背負つてお運びし、お寺で供養を受けることが出来て一安心しました。が、今でも毎日そのことは気にかかるところです。どうか家族の下に帰つて下さいと祈る毎日です。

当日は雪が舞い、三月にしてはまれにみる寒さでした。大津波に追われて必死で這い上つて助かつた人、家ごと流され岸にたどり着いたが、低体温症で命を落とした人、海拔十六メートルの高台に立つている病院のカーテンレールにしがみつき命を捨てる人、地獄の淵から這い上がつて命を握りしめた人、途中で力尽きて命をつかめなかつた人、人の運命は様々です。

私もあの時もしやと考えると、今も恐怖が襲ってきます。

幸い夫婦共々命を授かりましたので、今後もお守りをしっかりと身に着け、命の大切さを感じながら日々を送つていきたいです。

霊断師各聖

日蓮宗霊断師会 智雄
会長 新聞 光行
会 長 新 建
総局長

東日本巨大地震救援募金ご協力をお願い

合掌 秋涼の候 ご尊聖には為法為宗、ご精励の御事と存じます。

3月11日、日本全土を震撼させた巨大地震とそれに伴う大津波が東北地方を中心に発生いたしました。

被災地の中に多くの本会聖徒団や聖徒の方の家庭があることを思えば、この大惨事を他人事として考えるわけにはいかないと存じます。

本会として、できる限り救援の手を差し伸べることが急務であります。

そこで、本霊断師会では窓口として、救援募金の振込口座を開設致しました。

お志がおありの方は、多少にかかわらず、下記宛に浄財をお送りいただければ幸甚に存じます。

再拝

記

●郵便振替口座
「口座記号番号」 00190-3-358732
「加入者名」 日蓮宗霊断師会総務局財務部
救援募金担当 光枝 妙珠

東京都新島村本村3丁目1-4
TEL 04992-5-0111
FAX 04992-5-0111

よろこび法話

家業繁栄の道

北海道妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄



ある日、八十歳になるおばあさんがお寺にお見えになり、泣き叫びながら次のように訴えるのでした。

『お上人さん、毎日毎日お腹が痛くて、痛くて、洗面器にあふれるほどの血を吐いておりません。どうか助けて下さい！』

よくよく事情を聞いてみますと、三年前に胃ガンと十二指腸ガンを患い、手術をしたとの事。術後は経過も良好で、お医者様からもガンの転移はありませんと、有難いお言葉を頂いて安心していましたが、ここ二、三日前から吐血の苦しみにあえぐようになりまして。

病院で検査をしても、どこにも異常は見当たらないとの事でした。

早速この病気の原因は何処にあるかを霊断で仰いでみますと、なんと、ご先祖様の供養が必要と出ているではありませんか。早速おばあさんにその旨をお話し、俱生神月守を着帯させ、御塔婆施餓鬼供養をお勧めし、さらに生霊退散のご祈禱をお勧め致しました。

その後一週間、ご本人と共に、御塔婆施餓鬼供養と生霊退散のご祈禱を行っていくうちに、お腹の痛みも少しづつ和らぎ、吐血の回数も少なくなってきました。そして満願の四十九日に至りますと、あれほど苦しんでいたお腹の痛みと吐き気は、嘘のようにピタリと治まったのでした。ご本人の喜びは譬えようが無く、只々「有難い、有難い」の言葉があるのみでした。

法華經比喩品第三の中に、『今此の三界は、皆是れ我が有なり。其の中の衆生は、悉く是れ我が子なり。而も今此の処は、諸の患難多し、唯だ我一人のみ、能く救護をなす。』とあります。

この文の心は、今此の三界(全世界)は、すべて、壽量御本佛様のお持ち物でございます。その中の衆生(全世界の人々)はことごとく(漏れなく) 壽量御本佛様の子供であります。しかも今この世界は諸々の苦しみ、悩みが多く、その中において、壽量御本佛様は唯だお一人、救いのみ手を垂れて下さっているのです。つまり壽量御本佛様は私たちにとっては、主人であり、お師匠様であり、そしてみ親であるのです。

この大きな三つの徳を備えた壽量御本佛様であればこそ、私たちが子供である一切衆生が救われなければならないのであります。さらに日蓮大聖人の祈禱抄のお言葉の中にも、『行者は必ず不実なりとも、智慧は愚かなりとも、身は不浄なりとも、戒徳は備わらずとも、南無妙法蓮華經と申さば必ず守護し給うべし。』と、只々、南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經と唱える処には無条件での御守護が約束されているのであります。

その後おばあさんは、お嫁さんと来寺し、二人してこう云うのでした。

「今までお互いに上げ足を取る毎日でしたが、嫁がいればこそ家庭の平安が有ることを教えられ、姑がいればこそ先祖の有難みが尊く教えられました。」

特に孫が家業を継ぐのを嫌がっておりまして、何を思ったか、「ばあちゃん、俺、家業を継ぐよっ!」と言い出したのには、おばあ



さんもビックリ、只々驚くばかりでした。その訳をおばあさんが孫に尋ねると、孫は「じいちゃん、ばあちゃんの後姿を見て育ち、お父さん、お母さんとの毎日の生活を見て教えられ、自分が今日あるのは、じいちゃん、ばあちゃん、お父さん、お母さんのおかげである事がわかりました。」と語り、それを聞いていた嫁も涙を流して、おばあさんと嫁は抱き合って喜んだのでした。今、孫は家業を継ぐために専門学校に行く準備を始めています。

「積尊の因行果徳の二法は妙法蓮華經の五字に具足す、我等此の五字を受持すれば自然に彼の因果の功徳を譲り与えたもう。」という日蓮大聖人様の観心本尊鈔のお言葉通り、おばあさんの南無妙法蓮華經のお題目の信心のお蔭で、家族全員が壽量御本佛様の功徳を頂戴し、俱生神様の御守護を頂戴したのでした。

今では家族全員で俱生神月守を着帯し、一心にお題目を唱えて、家業繁栄を祈っております。

全国の聖徒の皆さんも四誓願が示す、誓って南無妙法蓮華經の道を持ち、誓って南無妙法蓮華經の道を行ひ、誓って南無妙法蓮華經の道を護り、誓って南無妙法蓮華經の道を弘めて行く人に成りましょう。

それが壽量御本佛様の恩に報いる道であり、一乗行道の聖者となる証であります。

全国の聖徒の皆さん、佛願満足、佛行成就の至誠を現して参りましょう。

イラスト 小川けんいち

俱生神月守のご案内

俱生神月守お申し込み要項

新規お申し込み、及び、月守体数の変更については、事務手続上、毎月五日までに連絡をお願いいたします。

発送は、日蓮宗霊断師会総務局が担当いたしますので、お申し込み、変更等は直接ファックスで「〇九四四(六七)二九三〇」に、ご連絡ください。

*新規お申し込み、体数変更の場合、お申込み体数を明記の上、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、送り先(寺院名(聖徒団) 団長名、以上をご記入の上、「〇九四四(六七)二九三〇」までファックス下さい。

四月発送分「五月月守」より、送料は無料となりました。振込用紙(日蓮宗霊断師会総務局宛、護持献金振り込み用)を同封します。俱生神月守と同様に送付します。護持献金は今までと同様の金額です。

月守りが毎月二十五日までに到着しない場合は、ご面倒でもファックスでお知らせください。確認いたします。よろしく願います。

ファックス先
『日蓮宗霊断師会総務局』宛
ファックス番号
〇九四四(六七)二九三〇
問合せ先
〇九四四(六七)〇五三三

イラストレーターご紹介

小川けんいちプロフィール
1974年北海道釧路市に生まれる
(株)昇夢虹(しょうむこう)でグラフィックデザイナー、イラストレーターとして絵を生かしたトータルデザインを手掛ける。イラスト個展、カルチャーセンター絵画教室講師、似顔絵イベント他みんなを笑顔にする「小川ブランド」を目標に日々奮闘中。
2011.2.1マイブックススケッチ集「MATO」出版
北海道旭川市在住
小川けんいちホームページ <http://ken1world.com>
小川けんいちブログ <http://blog2.ken1world.com>



佛壇駒形屋
〒070-0054 旭川市4条西5丁目2番3号
TEL(0166)22-4643 FAX(0166)22-4672

代表取締役社長 駒形 貞洋
各種寺院用仏具取扱い・修復等もお問合せ下さい
仏壇・仏具・数珠・線香・ローソク各種
お仏壇クリーニング・修復も行っております
お気軽にお問合せ下さい
全国発送承ります

砥森山 法華寺
生きて救われの道場

住 職 阿部 是秀
副住職 阿部 是真

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

がんばれ日本!

正立寺 妙法寺番神聖徒団
団長 新聞 信應

毎月1日 午前10時 盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談
神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404
島根県雲南市三刀屋町三刀屋1169
TEL 0854-45-3657
FAX 0854-45-3666

(株)伊藤家石材
〒070-0831 北海道旭川市旭町1条19丁目
TEL(0166)51-5017 FAX(0166)54-3272

お気軽にお問い合わせ下さい。

新規墓石建立・墓石のリフォーム・墓石の移転工事
戒名刻字・各種墓石用品、取り扱いしております。
御見積もりは無料です。お気軽にご相談下さい。

Flower

〒070-0829 北海道旭川市旭町11丁目15-10
TEL 0166-51-6882 FAX 0166-51-6482

RE-K